

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

【ドル/円 週足】



これは、年初からトランプ大統領が米国の貿易赤字に懸念を表明し、赤字の多くを占める中国や日本に対し批判を強め、ドル高をけん制する発言をしたことが背景にあります。

トランプ大統領は、彼の支持者の期待にこたえなければならず、そのためには米製造業の雇用を増やす必要があります。米製造業の雇用を増加させるためには、輸出の拡大が必要であり、それにはドル安が有効であるということです。

しかし、トランプ大統領が行おうとしている経済政策は、減税、規制緩和、インフラ投資の拡充という財政政策であり、これは米国の経済成長をもたらすとともに、FRBの利上げ継続を正当化することとなりますが、同時にドル高をもたらすものです。

過激な発言を繰り返す大統領がこの矛盾にどう取り組むのかという点に関し、市場の不透明感が高まり、疑心暗鬼が外国為替市場においてポジション調整を引き起こしていたといえます。

これが2月10日の日米首脳会談の結果、日米のより強固な協調関係が確認されたことにより、当面ドル/円に関しては過度の警戒が必要でないことが示されたことは重要でしょう。

つまり米国は現状水準から更なるドル安を志向することはなく、ドルの下抜けリスクは遠のいたものと考えられます。

ドル/円相場のトレード戦略

したがって、今後は米国の経済実態や金融政策の行方が焦点となる相場となっていくものと思われます。

■ 短期展望

先週は、イエレン米 FRB 議長の議会証言での「利上げを過剰に長く待つことは賢明ではない」など追加利上げを示唆する発言や良好な米経済指標に支えられ、114 円 96 銭まで上昇したものの、節目の 115 円を抜け切れなかったことから利食い売りが優勢となり 112 円台まで下押し動きとなりました。

今週は、大きなイベントや重要経済指標の発表がなく、月曜日がプレジデント・デーで米国市場が休場となることもあり、模様眺めムードが強まりそうです。

日米首脳会談直前につけた 111 円半ばが当面の下値めど、先週上抜けに失敗した 115 円が上値抵抗となり、このレンジ内でのみ合いとなる可能性が高いように思われます。

相場を動かす鍵はトランプ政権の経済政策であり、期待を上回ればドル高、期待以下であれば失望のドル安という流れになるでしょう。